

【出題意図】

- ・長文読解力及び、設問に沿って適切に記述できる能力を問う。

【解答及び解答例】

問1

- ＜解答＞ (ア) 顕著 → けんちよ (イ) 翻訳 → ほんやく (ウ) 簡潔 → かんけつ
(エ) 反照 → はんしょう (オ) 峻別 → しゅんべつ

問2

- ＜解答＞ ヘゲモニー (主導的地位。指導権)

問3

- ＜解答＞ 1つめ → どのような語彙をもっているか (14字)
2つめ → 言葉をどのように語ることができるか (17字)
3つめ → 場に相応しい主題を選択できるかどうか (18字)

問4

- ＜解答例＞ 公共領域と私的領域の境界は固定したものではなく、何をもって「私的」とするかという言説によって書き換えられる。つまり、公私を分ける境界線は言説に依存する流動的なものであり、境界を越えて語る言説の実践の累積によって、公私の境界に変化がもたらされてきたからである。(129字)

(採点基準)

- ・公共領域と私的領域の境界は、言説 (コミュニケーション) によって書き換えられること、その理由として、公私を分ける境界線は、境界を越えて語る言説の実践の累積によって、公私の境界に変化がもたらされてきたことが示されている。
- ・文章が完結しており、字数が守られている。
- ・誤字脱字がない。

【出題意図】

基礎的な英語力を前提として、受験者が、(i) 与えられた時間内に一定分量の英文を正確に読むことができる「英語読解力」および(ii) 平易な語彙と文法を用いた「英語表現力」を備えているかを問う。

これらの力は、本学入学後に、専門とする学問領域に対する理解を深め、自らの研究や実践の成果を積極的に発信する上で求められるばかりでなく、多様な文化的背景を持つ人びとと英語を共通言語としてコミュニケーションを図り、さらには、そういった人びとと将来にわたって協働していく技術や態度を身につける上で、必要不可欠な英語（言語）運用力の構成要素であると考え。

【解答例】

問1

<解答例> ソーシャルケースワークは、心理、社会的課題をもつ人びとを支援するひとつの方法（技法）である。その支援方法は、調査研究・診断・治療（処遇）のプロセスを含む。これらのプロセスは、面接を通して行われる。

※（ ）内に記載されている日本語の単語を活用しても可能。

<採点基準>

- ・日本語表現としての自然さ
- ・誤字脱字

問2

<解答> The caseworker

問3

<解答> however

〔解説〕 逆接の意味の語が入ることを、文脈から理解できれば正解を選択できる。

問4

<解答> 身体的ニーズ、情緒的ニーズ、知的ニーズ、社会的ニーズ、スピリチュアル（精神的/実存的）ニーズ

〔解説〕 spiritual は、学術的に日本語訳が確立していないため、スピリチュアルニーズ/ 精神的ニーズ/実存的ニーズと訳しても可能とする。

【出題意図】

・長文読解力及び、設問に沿って適切に記述できる能力を問う。

【解答及び解答例】

問1

<解答> (ア) キミヨウ → 奇妙 (イ) コクフク → 克服 (ウ) グウゼン → 偶然
(エ) モサク → 模索 (オ) リンショウ → 臨床

問2

<解答> A の選択肢 → 本来あるべき姿
B の選択肢 → と向き合えること

問3

<解答例> 「悲しみを悲しまないこと」「耐えてしまうこと」は不健康な心的防衛の表れであり、逆に、「過度に悲しみすぎることも不健康な心の状態の表れである。そのどちらでもなく、悲しみを十分に悲しむことが癒しに近づける力になるとフロイトは考えており、人は、「悲しみを悲しむこと」によって、はじめて悲しみという現実を様々な角度から考え、悲しみを抱きながらも、新たな現実を生きることができるからである。(191字)

(採点基準)

- ・悲しみをうまく受け入れられないと心にダメージが残る。
- ・「悲しみを十分に悲しむ」ことは、悲しみから逃げることでなく、悲しみすぎることでなく、適度の悲しむことが癒しにつながることでありという理解ができているか。
- ・「悲しみを悲しむ」ことは、現実を客観的に受け入れることで、悲しむことがネガティブなものではないことを理解することができ、悲しみを抱きながらも前に進めるようになることが「癒し」である。
- ・文章が完結しており、字数が守られている。
- ・誤字脱字がない。